

2019(令和元)年度

地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」のまとめ

兵庫県教育委員会

目 次

I	2019(令和元)年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施 状況のまとめ		
1	参加生徒数等について	・・・	1
2	公立中学校及び県立中等教育学校の活動について	・・・	2
3	市立特別支援学校の活動について	・・・	5
II	地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション） 実施状況について	・・・	6
[資料1]	2019(令和元)年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」 実施後アンケート調査の結果	・・・	7
[資料2]	2019(令和元)年度「トライやる・ウィーク」校区推進 委員会について	・・・	14

I 2019(令和元)年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施状況のまとめ

(義務教育学校〔後期課程〕は公立中学校に含む)

1 参加生徒数等について

- (1) 実施校は、359校(全公立中学校340校、県立中等教育学校1校、市立特別支援学校18校)
 6月を中心に実施した学校 : 223校(62.1%) (内数:市立特別支援学校 6校)
 11月を中心に実施した学校 : 136校(37.9%) (内数:市立特別支援学校 12校)
- (2) 実施期間は、令和元年5月13日～令和元年11月29日
- (3) 参加生徒数は、42,346名(内数:特別支援学級797名、市立特別支援学校117名)
- (4) 班数は、16,866班で1班につき生徒平均2.5名 ※22年間:1,079,197名
- (5) 活動場所数は、16,741カ所で1カ所につき生徒平均2.5名
- (6) 指導ボランティアの数は、22,352名でボランティア1名につき生徒平均1.9名
- (7) 市立特別支援学校の介助補助員数は、34名

年度	実施校数	2年生		班の数	活動場所の数	指導ボランティアの数
		学級数	生徒数			
2019(R1)	359	1,269	42,346	16,866	16,741	22,352
H30	359	1,329	43,614	16,827	17,180	24,282
H29	360	1,345	44,922	16,872	16,969	22,657
H28	359	1,447	46,502	17,360	17,379	22,901
H27	362	1,418	47,523	17,657	17,557	22,531
H26	362	1,409	48,045	18,040	17,373	22,577
H25	364	1,415	48,801	17,660	17,261	22,955
H24	366	1,448	49,514	17,515	17,312	22,855
H23	365	1,437	48,885	17,355	17,306	21,992
H22	368	1,413	48,094	17,110	16,325	19,858
H21	369	1,403	47,271	16,487	15,893	20,093

年度	班編制	活動場所	指導ボランティア
2019(R1)	1班:2.5名	2.5名につき1カ所	1.9名につき1名
H30	1班:2.6名	2.5名につき1カ所	1.8名につき1名
H29	1班:2.7名	2.6名につき1カ所	2.0名につき1名
H28	1班:2.7名	2.7名につき1カ所	2.0名につき1名
H27	1班:2.7名	2.7名につき1カ所	2.1名につき1名
H26	1班:2.7名	2.8名につき1カ所	2.1名につき1名
H25	1班:2.8名	2.8名につき1カ所	2.1名につき1名
H24	1班:2.8名	2.9名につき1カ所	2.2名につき1名
H23	1班:2.8名	2.8名につき1カ所	2.2名につき1名
H22	1班:2.8名	2.9名につき1カ所	2.4名につき1名
H21	1班:2.9名	3.0名につき1カ所	2.4名につき1名

2 公立中学校及び県立中等教育学校の活動について

(1) 活動内容

ア 分野別

活動分野	2019(R1)	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21
① 職場体験活動	82.3%	82.9%	83.1%	82.8%	82.5%	83.8%	83.5%	84.4%	83.5%	81.7%	82.6%
② ボランティア・福祉体験活動	9.9%	9.0%	8.7%	8.9%	9.3%	8.3%	8.0%	7.3%	7.8%	7.8%	7.0%
③ 文化・芸術創作体験活動※1	3.5%	3.9%	3.7%	3.9%	4.0%	3.4%	3.1%	3.7%	3.9%	3.8%	4.5%
④ 農林水産体験活動	2.1%	2.2%	2.3%	2.3%	2.4%	2.2%	2.2%	2.4%	2.5%	2.7%	2.8%
⑤ その他※2	2.2%	2.0%	2.3%	2.1%	1.8%	2.3%	3.2%	2.2%	2.3%	4.0%	3.1%

※1 ③「文化・芸術創作体験活動」には、平成16年度から「地域・郷土・芸能活動」が含まれている。

※2 ⑤「その他」には、「国際理解、科学技術、環境、情報」が含まれている。

イ 内容別（上位10の活動内容）

活動内容	2019(R1)	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21
① 幼児教育	20.2%	20.9%	20.8%	20.9%	20.8%	20.6%	21.1%	20.8%	20.7%	20.9%	21.1%
② 販売	16.9%	17.5%	17.7%	17.9%	17.6%	20.3%	19.6%	19.3%	19.2%	19.6%	19.3%
③ 社会福祉施設	9.2%	8.4%	8.0%	8.0%	8.0%	7.1%	6.9%	6.3%	6.5%	5.9%	5.4%
④ 役所・消防署等	8.3%	8.1%	8.5%	7.8%	7.7%	7.5%	8.0%	7.9%	8.4%	7.8%	8.0%
⑤ 飲食店等	7.5%	7.4%	7.1%	6.9%	7.0%	7.0%	6.5%	6.4%	6.6%	6.1%	6.4%
⑥ 小学校・高校・大学	6.9%	6.9%	6.7%	6.1%	5.9%	5.4%	5.5%	5.4%	5.0%	4.6%	4.6%
⑦ 病院等	4.4%	4.4%	4.1%	4.0%	3.8%	3.8%	3.7%	3.6%	3.7%	3.5%	2.9%
⑧ 製造・建築	4.0%	4.2%	4.3%	4.5%	4.7%	4.7%	5.1%	5.0%	4.7%	4.9%	4.9%
⑨ スポーツ・体育施設等	3.7%	3.4%	3.4%	3.5%	3.6%	3.5%	3.7%	3.7%	3.8%	3.7%	3.7%
⑩ 文化・芸術創作体験活動※	3.5%	3.9%	3.7%	3.9%	4.0%	3.3%	3.1%	3.7%	3.9%	3.8%	4.5%

※ ⑩「文化・芸術創作体験活動」には、平成16年度から「地域・郷土・芸能活動」が含まれている。

ウ 本年度の特色ある取組

<p><地域の特色を生かした体験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリの生態観察・飼育 ・キャンプ施設の整備・点検 ・停留船の管理、船舶操縦体験 ・魚や昆虫の観察、樹木の調査 ・水棲生物の飼育管理・採集 ・丹波竜に関する化石調査 ・森林の調査、測量 ・ゴルフ場業務 	<p><地場産業等での体験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たまねぎの収穫・選別・出荷 ・醤油の製造、商品開発研修 ・牡蠣の養殖作業・販売 ・そろばんの製作 ・線香の包装、お香作り ・釣竿・釣針の製造 ・赤穂緞通を織る体験 ・養蚕に関する作業 	<p><その他特徴的な体験></p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道車両・レール点検、清掃 ・プラネタリウムでのアナウンス ・和太鼓の製作 ・番組制作、機材整理、収録現場見学 ・ドローン操縦 ・就労支援施設でのパン製造 ・高齢者とのレクリエーション活動 ・新聞記事の作成
--	--	--

(2) 生徒の希望達成度

・第一希望が叶えられた生徒は、70.7%である。

活動内容	2019(R1)	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21
・第一希望が叶えられた生徒	70.7%	69.9%	69.4%	70.2%	68.4%	68.1%	69.1%	70.0%	70.9%	70.6%	70.0%
・第二希望が叶えられた生徒	16.3%	16.2%	16.7%	17.4%	17.1%	18.9%	17.6%	17.1%	16.5%	16.2%	16.5%
・第三希望が叶えられた生徒	6.4%	6.1%	7.0%	5.9%	6.4%	7.1%	7.4%	6.8%	6.6%	6.5%	7.2%
・その他	6.6%	7.8%	6.8%	6.5%	8.1%	6.0%	5.9%	6.1%	6.0%	6.7%	6.3%

(3) 第一希望にならなかった生徒への対応（複数回答）

- ・活動の意義の話 ……65.4%
- ・他の紹介及び新しい受入先開拓 ……62.5%
- ・時間をかけて話し合った ……46.3%

(4) 生徒の「やりたいことができる」活動場所の確保について

- ・新規の活動場所の割合（数） …… 9.3%（1,547カ所）
- ・校区外の活動場所の割合（数） ……43.6%（7,263カ所）

(5) 事前指導について

ア 事前指導の平均時間数…10.8時間

イ 主な事前指導の内容例（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

・趣旨及び活動説明会	(100%)	・名刺作り等	(85.6%)
・希望調査	(100%)	・出発式	(81.8%)
・受入先への訪問	(96.8%)	・ボランティア等との打ち合わせ	(80.9%)
・マナー指導等	(94.4%)	・他学年、地域等への啓発活動	(65.4%)
・受入先の紹介等	(90.9%)	・福祉学習	(30.2%)

(6) 事後指導について

ア 事後指導の平均時間数…7.8時間

イ 主な事後指導の内容例（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

・礼状作成等	(98.2%)	・発展学習	(49.3%)
・感想文集作成等	(90.6%)	・「トライやる」アクション	(46.6%)
・実践発表会	(85.0%)	・キャリアノートによる振り返り	(40.5%)
・広報活動	(56.3%)	・交流会	(18.2%)

※ 発展学習実施校（168校）の内訳

福祉・健康学習	(31.1%)	情報学習	(29.0%)	人権学習	(21.7%)
防災学習	(15.5%)	環境学習	(12.9%)	平和学習	(8.2%)
国際理解学習	(9.1%)				

(7) 事前・事後指導における進路学習（キャリア教育含む）の実施

（公立中学校及び中等教育学校の実施率）

- ・事前指導のみ ……17.9%
- ・事後指導のみ …… 7.3%
- ・事前指導・事後指導どちらも実施……74.8%
- ・実施していない …… 0%

(8) 「トライやる・ウィーク」における校種間連携について

小学校と連携した取組の実施	61.0%	高等学校と連携した取組の実施	9.7%
---------------	-------	----------------	------

〔連携した内容〕

- ・小学校での授業補助や校内環境整備、小学校6年生への中学校生活の紹介等行っている。
- ・小学校6年生が中学校1日体験する際、トライやる・ウィークの体験を発表している。
- ・高等学校の農業園芸実習に参加している。

(9) 不登校生徒への影響（市立特別支援学校は除く）

- ・1年生の時に不登校の生徒（年間30日以上欠席）のうち、「トライやる・ウィーク」に全日参加した生徒は、581名（全体の40.2%）であった。
- ・実施後1ヵ月の状況は、208名（全日参加生徒の35.8%）の生徒の登校率が上昇した。

	調査校	在籍生徒数	左のうち1年生の時に不登校の生徒数	全日参加生徒数	実施後1ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒	実施後2ヵ月の状況 登校率の上昇した生徒
2019 (R1)	359校	43,042名	1,445名	581名	208名	199名
				40.2%	35.8%	34.3%
H30	359校	44,831名	1,198名	507名	194名	176名
				42.3%	38.3%	34.7%
H29	360校	45,633名	1,140名	468名	198名	167名
				41.1%	42.3%	35.7%
H28	359校	46,930名	997名	428名	191名	176名
				42.9%	44.6%	41.1%
H27	346校	47,876名	994名	421名	126名	139名
				42.4%	29.9%	33.0%
H26	346校	48,548名	889名	360名	151名	136名
				40.5%	41.9%	37.8%
H25	347校	49,128名	977名	442名	188名	178名
				45.2%	42.5%	40.3%
H24	348校	49,399名	984名	457名	175名	157名
				46.4%	38.3%	34.4%
H23	348校	48,781名	916名	427名	163名	154名
				46.6%	38.2%	36.1%
H22	350校	48,614名	887名	344名	128名	129名
				38.8%	37.2%	37.5%
H21	352校	48,021名	934名	383名	152名	143名
				41.0%	39.7%	37.3%

3 市立特別支援学校の活動について(平成 17 年度から実施)

(1) 実施校数 18 校

6 月を中心に実施した学校： 6 校、 11 月を中心に実施した学校：12 校

(2) 実施期間 令和元年 6 月 3 日～令和元年 11 月 22 日

(3) 参加生徒数 117 名 (46 クラス、在籍生徒数 125 名)

(4) 班数 91 班 (1 班平均 1.3 名)

(5) 指導ボランティア数 189 名 (生徒 0.6 名につき 1 名)

(6) 介助補助員数 34 名 (生徒 3.4 名につき 1 名)

(7) 活動場所数 99 ヲ所

居住地中学校区内で活動した生徒の割合 56.6% (56 名/117 名)

	実施校数	2 年生		班の数	活動場所 の数	指導ボラン ティアの数	介助補助員 の数
		学級数	生徒数				
2019(R1)	18	46	117	91	99	189	34
H30	17	44	130	78	99	304	51
H29	18	57	164	95	112	238	66
H28	17	55	150	120	109	174	96
H27	18	46	135	109	109	234	109
H26	16	45	146	103	182	201	86
H25	17	37	112	58	86	153	51
H24	18	41	115	85	119	137	55
H23	17	41	104	68	96	149	89

	班編制	活動場所数	指導ボランティア数	介助補助員数
2019(R1)	1 班： 1.3 名	1.2 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	3.4 名につき 1 名
H30	1 班： 1.7 名	1.3 名につき 1 ヲ所	0.4 名につき 1 名	2.5 名につき 1 名
H29	1 班： 1.7 名	1.5 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	2.5 名につき 1 名
H28	1 班： 1.3 名	1.4 名につき 1 ヲ所	0.9 名につき 1 名	1.6 名につき 1 名
H27	1 班： 1.2 名	1.2 名につき 1 ヲ所	0.6 名につき 1 名	1.2 名につき 1 名
H26	1 班： 1.4 名	0.8 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.7 名につき 1 名
H25	1 班： 1.3 名	1.3 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	2.2 名につき 1 名
H24	1 班： 1.4 名	1.0 名につき 1 ヲ所	0.8 名につき 1 名	2.1 名につき 1 名
H23	1 班： 1.5 名	1.1 名につき 1 ヲ所	0.7 名につき 1 名	1.2 名につき 1 名

(8) 活動内容

ア 分野別

活動分野	2019(R1)	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23
① 職場体験活動	62.9%	55.0%	53.4%	64.2%	58.3%	53.4%	61.5%	62.9%	55.8%
② 文化・芸術創作体験活動	17.4%	10.6%	17.2%	4.9%	5.8%	2.5%	8.9%	9.1%	7.3%
③ ボランティア・福祉体験活動	13.4%	23.9%	9.5%	16.0%	16.9%	19.5%	13.1%	12.7%	23.5%
④ 農林水産体験活動	6.0%	10.2%	14.3%	8.7%	15.2%	12.7%	7.0%	11.1%	12.7%
⑤ その他	0.3%	0.3%	5.6%	6.1%	3.8%	11.9%	9.6%	4.2%	0.8%

イ 内容別 (2019(令和元)年度上位 6 の活動内容)

① 水族館動物園	15.5%	③ 役所・消防署	7.4%
② 交通機関	7.9%	⑤ 販売	5.2%
③ 製造・建築	7.4%	⑥ スポーツ体育施設	4.4%

ウ 本年度の特色ある取組

・水族園	・交通機関	・消防署	・警察
・介護体験	・作業所での作業補助		

II 地域連携推進活動（地域に活かす「トライやる」アクション）実施状況について

(1) 実施校 227校 63.2% (H30 219校 61.0%)

(2) 参加生徒数 ()内は特別支援学校生徒参加数：内数

学年	参加生徒数	1校当たりの参加生徒数
1年生	14,949名(62)	65.9名
2年生	15,950名(75)	70.3名
3年生	11,696名(58)	51.5名
合計	42,595名(195)	187.6名

(3) 活動内容について ()内は特別支援学校：内数 (複数回答)

活動区分	実施校数	割合	実施回数	割合
地域の祭り等を企画、運営する活動	147校(2)	64.8%	283(6)	29.5%
清掃活動やボランティア等を諸団体と連携して行う活動	201校(2)	88.5%	524(3)	54.7%
「トライやる・ウィーク」の継続的な活動	76校(4)	33.5%	151(18)	15.8%
合計	※母数は、実施校数		958(27)	100%

(4) 活動の内容例

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の夏祭り・運動会・音楽会等の企画 ・地域伝統行事への参加及び運営補助（盆踊り、餅つき、各地の祭り 等） ・地域行事への参加及び運営補助（マラソン大会、防災総合訓練 等） ・清掃活動、クリーンキャンペーン、環境美化浄化啓発パレード、廃品回収 ・ふれあいコンサート、定期演奏会、訪問演奏会 ・街頭共同募金（赤い羽根、ユニセフ） ・点字・手話体験教室 ・敬老会、デイサービス・老人ホームでのボランティア ・グランドゴルフ大会 ・こども園夏祭り、子育てボランティア体験、本の読み聞かせ、紙芝居 ・ひまわり植栽作業、芋掘り、綿つみ

(5) 実施時期について ()内は特別支援学校：内数 (複数回答)

	実施校数	割合	実施回数	割合
土曜、日曜日等を利用して実施	224校(5)	98.7%	644(21)	67.2%
夏季休業中に実施	126校(3)	55.5%	284(5)	29.6%
冬季休業中に実施	14校(1)	6.2%	21(1)	2.2%
春季休業中に実施	9校(0)	4.0%	9(0)	0.9%
合計	※母数は、実施校数		958(27)	100%

[資料1] 2019(令和元)年度地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」実施後
アンケート調査の結果(調査実施校数 341校)

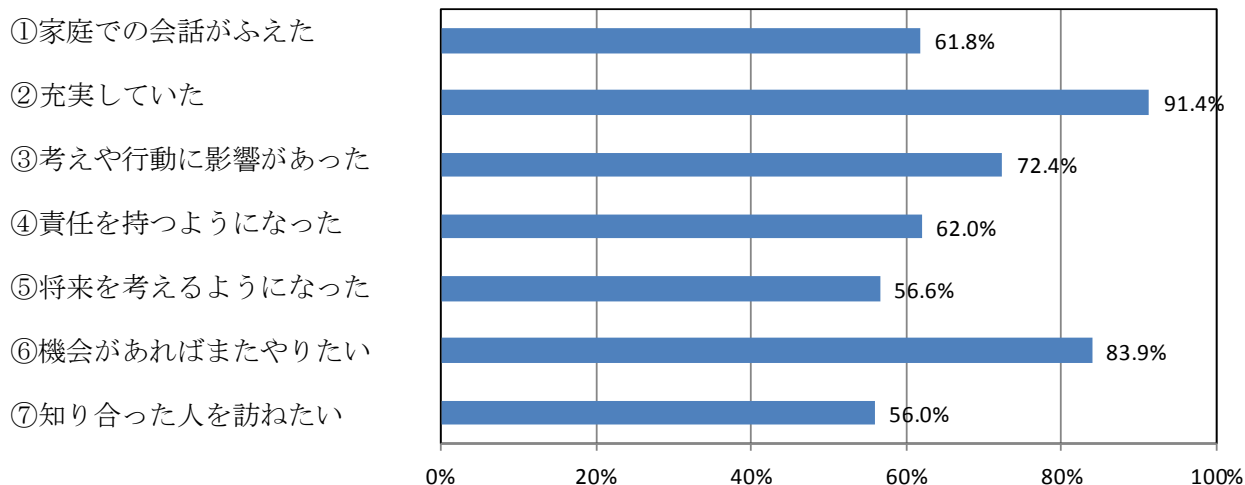
- 1 生徒アンケート(回答数 40,185人)
- 2 保護者アンケート(回答数 32,873人)
- 3 関係者アンケート(回答数 13,455人)
- 4 教職員アンケート(回答数 3,044人)



1 生徒アンケート（回答数 40, 185 人）

質問項目	2019(令和元)年度	平成30年度
働くことの大切さ、厳しさ、楽しさを感じた	90.9%	89.6%
コミュニケーションの大切さを感じた	78.7%	78.3%
社会のルールやマナーの大切さを感じた	71.1%	72.5%
大人の人の優しさを感じた	69.4%	69.4%
達成感や自信を感じた	69.0%	68.5%
人のために役に立つうれしさを感じた	68.5%	68.9%
保護者や大人の人への感謝の気持ちを感じた	68.3%	65.5%
人とのふれあうことの楽しさを感じた	65.5%	66.3%
学校で学んだり活動する目的の大切さを感じた	49.1%	49.0%

- (設問)
- ①「トライやる・ウィーク」を体験する中で、家庭での会話がふえた。
 - ②自分にとって、「トライやる・ウィーク」の一週間は充実していた。
 - ③「トライやる・ウィーク」の活動で、自分の考えや行動に影響があった。
 - ④「トライやる・ウィーク」の活動を終えて、自分の決めたことに責任を持つようになった。
 - ⑤「トライやる・ウィーク」の活動を終えて、自分の進路や将来などについて考えるようになった。
 - ⑥「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があればまたやってみたい。
 - ⑦「トライやる・ウィーク」が終わってからも、「トライやる・ウィーク」をきっかけに知り合った人たちを訪ねたいと思う。

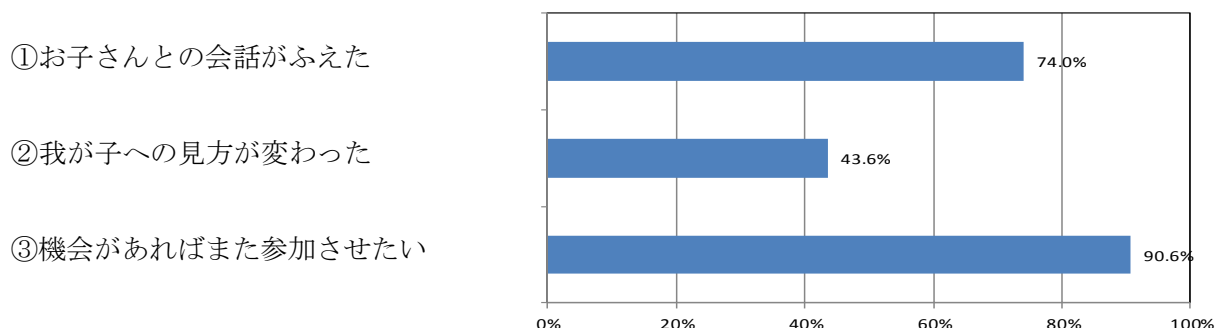


○生徒の感想より

- ・自分のためだけでなく、相手のために働くということがどんなに幸せかを感じた。
- ・大人の人のすごさや、毎日お弁当を作ってくれた親への感謝を感じた。
- ・自分を信じて仕事を任せてくれることがうれしかった。そのためには、人に信じてもらえるような行動をしていかないといけないと思った。
- ・初日はすごく緊張して自己紹介で声が震えてしまったけど、最終日は堂々と前で伝えることができた。将来の夢をかなえるために今何ができるのか、何をすべきかについても考えることができた。
- ・何事にも自分からやってみる。やったことのないことを学ぼうとする大切さを感じた。

2 保護者アンケート（回答数 32,873人）

- （設問）
- ①「トライやる・ウィーク」を体験する中で、お子さんとの会話がふえた。
 - ②「トライやる・ウィーク」の活動を通して、我が子への見方が変わった。
 - ③「トライやる・ウィーク」のような活動を機会があれば、また参加させたい。

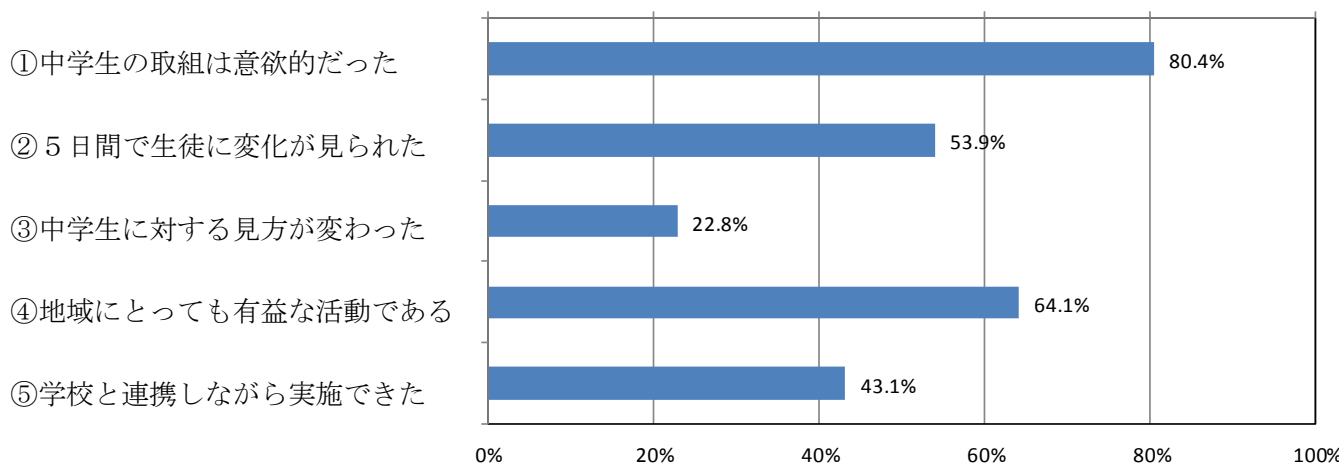


○保護者の感想より

- ・地域の方のご協力で、様々な体験をさせて頂き感謝している。忙しい業務がある中で受け入れをしてくださり、頭が下がる思いである。家庭・学校を越えて地域の方々から学び、見守っていただいていることを知る良い機会だった。
- ・「疲れた」「大変」と言っていた初日から「楽しい」に変わっていく子どもの様子を見て、よい機会だと思った。
- ・仕事をする楽しさ、認められて、ほめていただく喜び、難しさなど、普段と違った生活の中での気づきがたくさんあったようで、目の前の生活だけでなく、将来を見据えて考えるいい機会だった。
- ・家庭ではあまり活動の様子を話してくれなかったが、記録ノートからとても楽しく勉強になったことがわかった。
- ・最初は自分が希望する事業所ではなく、親としても不安な面があったが、「トライやる・ウィーク」を終えてみて、逆によかったと思えた。何事も経験、社会に出たら好き嫌いで仕事はできない。本人もいろいろな面で学ぶことができたと思う。
- ・今まで手伝いを頼んでも、嫌々していたが、「トライやる・ウィーク」の後は、進んで手伝いをしてくれるようになった。本人の中で何か感じたことがあったのだと思う。

3 関係者アンケート（回答数 13,455人）

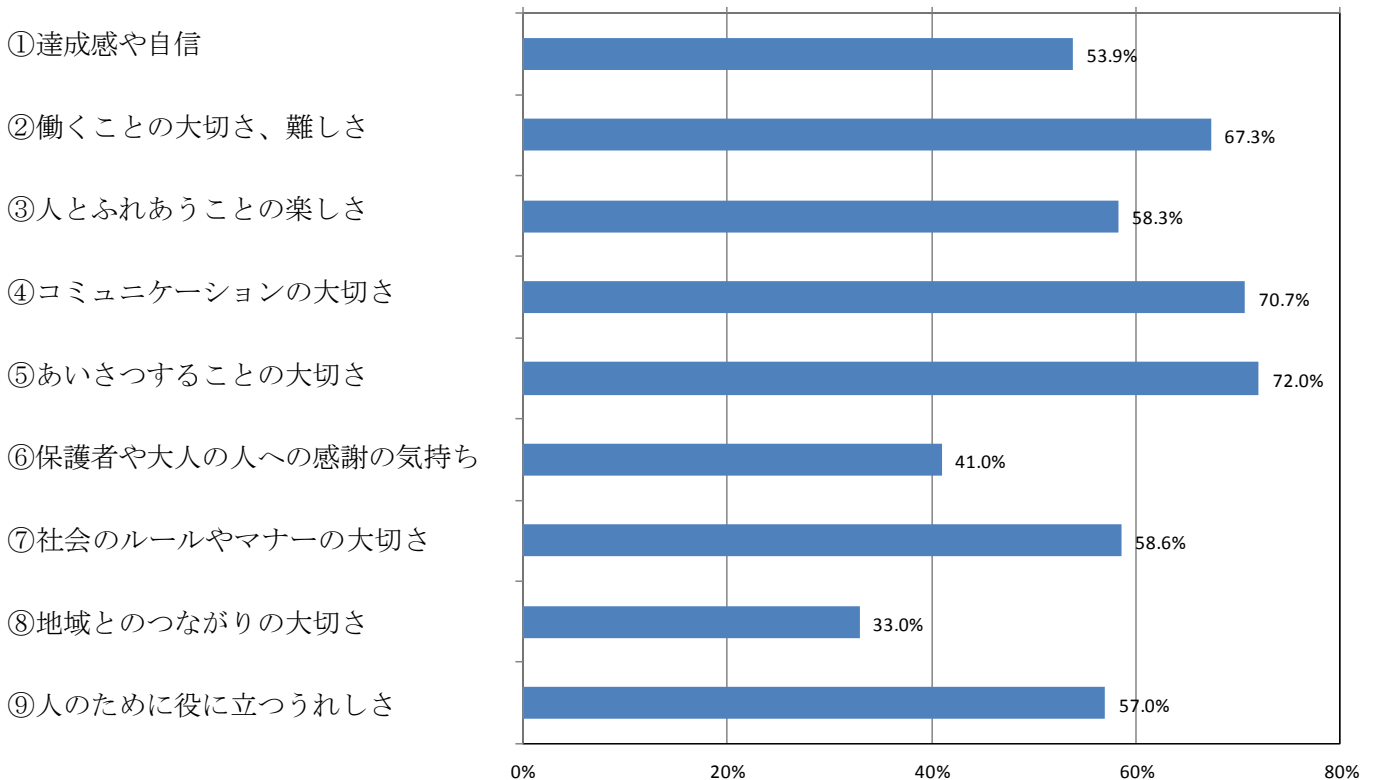
- （設問）①「トライやる・ウィーク」に参加した中学生の取組は意欲的だった。
②「トライやる・ウィーク」の5日間で生徒に変化が見られた。
③この一週間で中学生に対する見方が変わった。
④「トライやる・ウィーク」は地域にとっても有益な活動である。
⑤学校と連携しながら実施できた。



○ 指導ボランティアの感想より

- ・地域で子ども達を支えていくことは先生、保護者のみならず、企業も関わっている。今後も様々なつながりの中で、子ども達が目標を定めて生きていけるように微力ながら携わっていったらと思う。
- ・保護者からの一言という欄にも注目させていただいた。常日頃は親子の会話が少なくなる年ごろだと思うが、トライやる・ウィークの話をすることで会話が増えればと思った。親子で充実している様な感想をいただけることが受入れ側としてもうれしい。
- ・5日間という短い期間ではあるが、お店や施設で職業体験をし、働くということを少しでも理解できるのは、進路を考える上でも役に立っていると思う。
- ・トライやる・ウィークの体験を通じて、働くことの大切さや厳しさを経験するとともに、自身の成長を実感し、達成感を味わうことができるなど、中学生にとって非常に貴重な機会であると思う。人数に限りはあるが、今後も積極的に受け入れに協力したい。
- ・初めはどうかと思ったが、5日間でここまで成長する子どもの吸収力に毎年驚かされる。
- ・トライやる・ウィークの受入れは会社としてはじめてだったが、子ども達がしっかりと話をして行動していたので安心した。私自身人生で無駄な経験はないと思っているので、トライやる・ウィークの経験は、今後何かの役に立ってくれると思っている。
- ・人口が減っていく中で、若い人に地域のことを知ってもらい、よい機会だった。

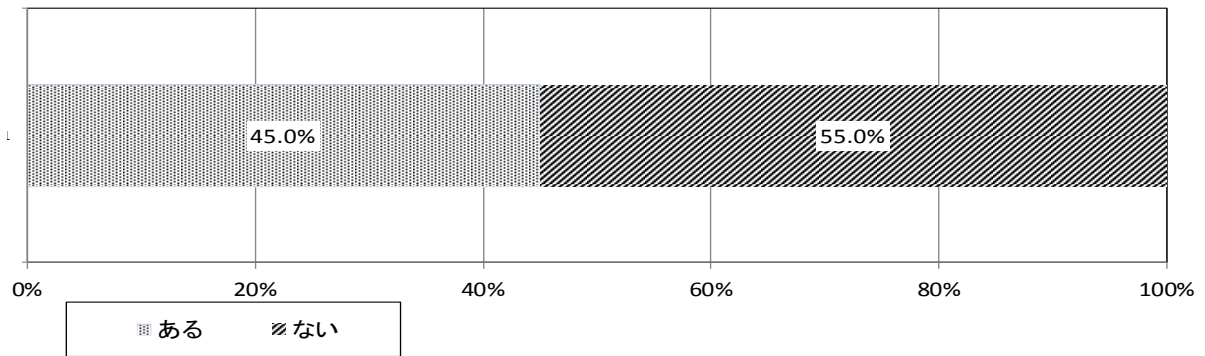
(設問) 受入先での社会体験において、生徒に身に付けてほしい力。



○ 身に付けてほしい力 (こと) (その他)

- ・思い描いたものと、現実との違いがあるが、忍耐強く取り組む力
- ・人は皆どこかでつながることを知り、どこかの知らない人を思うことができる力
- ・相手の気持ちを考えて行動できる力
- ・新しい事に対して挑戦する力
- ・自分から率先して働く自主性
- ・ミスしたり、思い通りに行動できなかつたりしても、次の瞬間からは気持ちを切り替えて「やり直そう」とする切り替え、挑戦する力
- ・ふるさとやふるさとの社会に興味を持ち、ふるさとを大切にすることの大切さ
- ・マニュアル通りではなく、その場その場で対処できる力
- ・礼儀やコミュニケーションの力
- ・仕事には、表面には見えない部分の働きがあることを感じ取る力
- ・自らの創意工夫によって課題に取り組み、高いレベルでの達成感を得られるよう、日々努力する力

(設問) 「トライやる・ウィーク」以外の学校や生徒とのつながりがありますか。

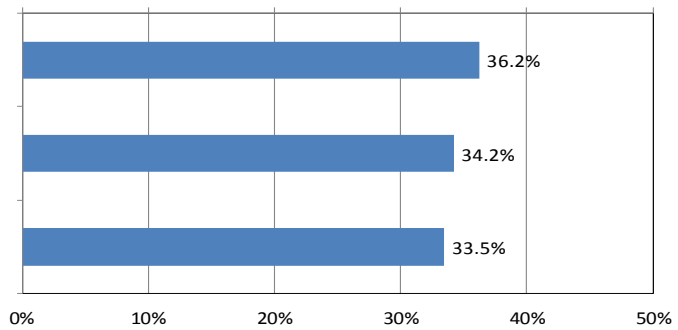


【つながりの内容】

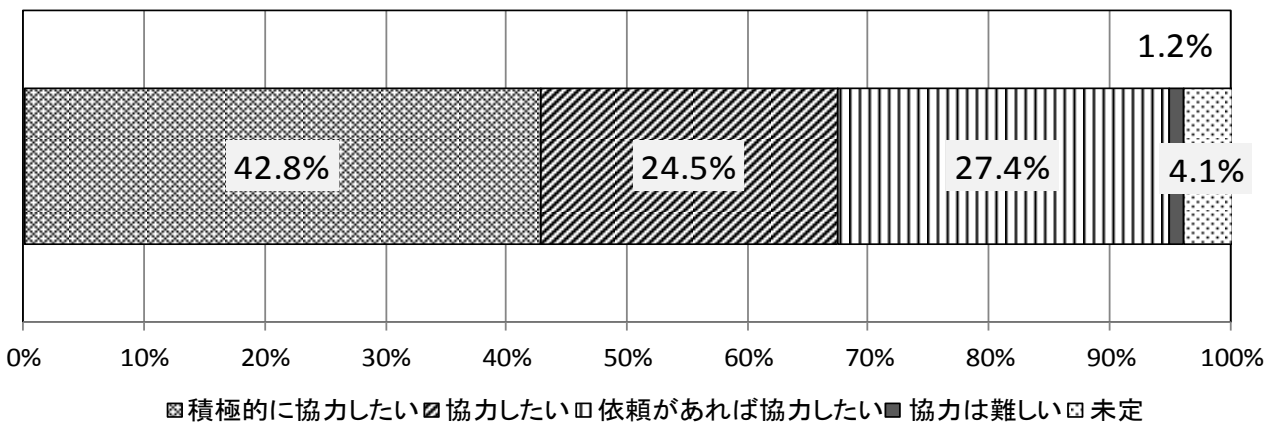
①あいさつや会話

②学校の行事等への参加

③事業所の行事等への生徒の参加

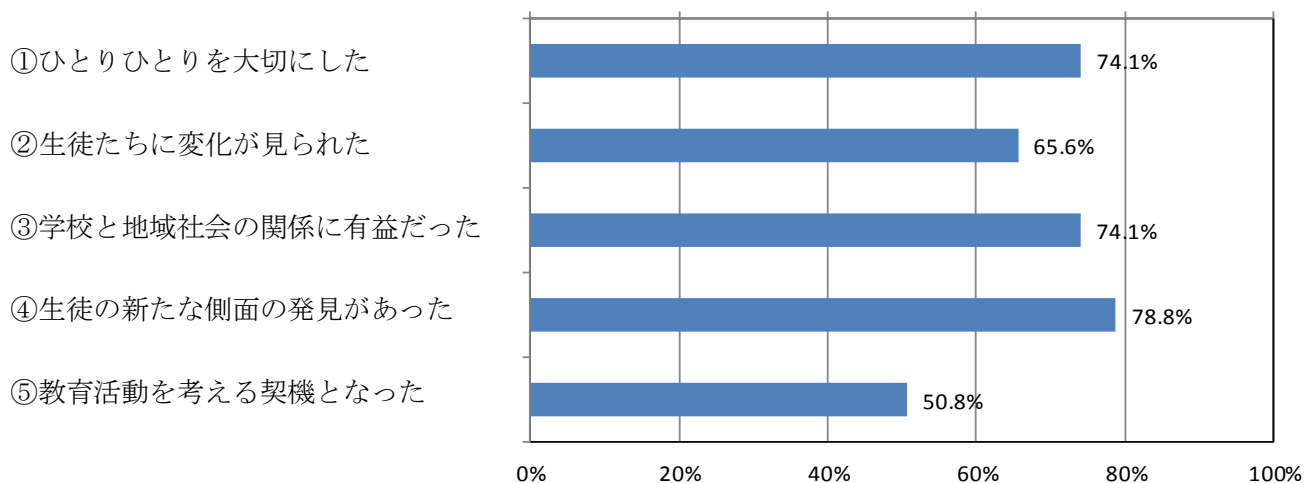


(設問) 来年度以降も、「トライやる・ウィーク」にご協力をお願いしますか。



4 教職員アンケート（回答数 3, 044 人）

- （設問）
- ①ひとりひとりを大切にしたい「トライやる・ウィーク」が実施できた。
 - ②「トライやる・ウィーク」を通して生徒たちに変化が見られた。
 - ③「トライやる・ウィーク」が学校と地域社会の関係にとって有益な活動であった。
 - ④「トライやる・ウィーク」を通して生徒の新たな側面などの発見があった。
 - ⑤「トライやる・ウィーク」が教育活動を考える契機となった。



○ 教職員の感想より

- ・トライやる・ウィークで地域の受入れ先にお世話になることで、家庭・地域・学校が一層強く結びつくきっかけになった。
- ・生徒の活動記録から成長をうかがうことができた。また、普段の学校生活では見えにくい生徒の魅力にも気付かされた。
- ・受入れ先の方は大変な労力をかけて取り組んでくださった。それが生徒に伝わって感動ある体験となった。
- ・学校では気づかないような生徒の一面が見られ、日ごろの指導の在り方を振り返る機会になった。
- ・校区推進委員長を中心に新規受入れ先開拓をしていただき非常に助かった。
- ・将来つきたい仕事をイメージしながらトライやる・ウィークを体験したり、普段学校で学んでいることと仕事とのつながりを意識するよい機会であったと思う。
- ・挨拶や返事など、受入れ先の方に対してきちんとできていたということがわかり、学校での様子とは違った一面を見ることができた。
- ・受入れ先の方から「とても助かっています」と言ってくださり、社会貢献できていることを感じた。

[資料2] 2019（令和元）年度「トライやる・ウィーク」校区推進委員会について

1 校区推進委員会の設置状況

すべての公立中学校、県立中等教育学校、市立特別支援学校、市立義務教育学校に設置されている。

2 校区推進委員会への参加者数及び内訳（平均人数）

学校関係	P T A関係	地域団体代表等	合 計
5.8名	5.9名	6.1名	17.8名

3 推進委員会の機能の状況

よく機能している	概ねできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計
19.1%	60.7%	15.8%	4.4%	100%

4 校区推進委員会が行っている活動例

・保護者、地域への啓発・協力依頼	・・・	76.8%
・受入先の開拓	・・・	65.7%
・受入先の検討	・・・	53.4%
・巡回訪問	・・・	50.1%
・生徒の活動についての検討	・・・	44.3%
・事前・事後指導における支援	・・・	42.2%
・アンケート・まとめ	・・・	26.1%
・取材	・・・	13.8%